



ひらぎし

札幌市立平岸小学校

平成30年12月14日

第10号

<http://www.hiragishi-e.sapporo-c.ed.jp/>

平成30年度 全国学力・学習状況調査について

4月に全国学力・学習状況調査が実施され、既に6年生の各家庭には、お子さんを通して個人の結果をお知らせしております。

このたび、本調査について分析を終えましたので、その結果についてお知らせいたします。なお、6年生の結果ではありますが、学校としましては本校児童全体の傾向として捉え、改善を進めていきたいと考えております。また、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

【国語】

	本校の概要	今回調査における課題	改善の方向
小学校 国語	主として「知識」に関する問題 (A) <input type="checkbox"/> 「話すこと・聞くこと」 ○全国平均と <u>ほぼ同程度であるが、やや上回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「書くこと」 ○全国平均に比べ、 <u>上回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「読むこと」 ○全国平均と <u>ほぼ同程度であるが、やや上回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「言語事項」 ○全国平均に比べ、 <u>上回っています。</u>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「読むこと」の知識における領域では、「目的に応じて必要な情報を捉える問題」と「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題」において、全国と同様に正答率が低い状況となっています。 ● 「書くこと」の活用に関する領域の中で「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題」において、全国と同様に正答率が低い状況となっています。 ● 「読むこと」の活用に関する領域の中で「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題」に全国と同様に正答率が低い状況となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「話すこと・聞くこと」では話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えを広げたり深めたりすることができるよう引き続き指導を継続していきます。 ○ 「書くこと」では依頼文や案内状、礼状などの実用的な文章を書く活動を通して、目的や意図を明確にして書く事柄を選び、書きたいことの内容が伝わるよう指導の充実を図ります。 ○ 「読むこと」については必要な情報を得るために、自分の目的に応じて適切な段落や部分を選び、情報を取り出しながら読むことができるよう指導の充実を図ります。 ○ 「言語事項」では、主語と述語などの関係をはっきりと理解して文章化できるよう指導の充実を図ります。
	主として「活用」に関する問題 (B) <input type="checkbox"/> 「話すこと・聞くこと」 ○全国平均を <u>上回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「書くこと」 ○全国平均を <u>上回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「読むこと」 ○全国平均と <u>ほぼ同程度であるが、やや上回っています。</u>		

※ 「言語事項」 → 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する言語事項」

【算数】

	本校の概要	今回調査における課題	改善の方向
小学校 算数	主として「知識」に関する問題 (A) <input type="checkbox"/> 「数と計算」 ○全国平均とほぼ同程度であるが、 <u>やや上回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「量と測定」 ○全国平均とほぼ同程度であるが、 <u>やや下回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「図形」 ○全国平均を <u>上回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「数量関係」 ○全国平均を <u>上回っています。</u>	<ul style="list-style-type: none"> ●「数と計算」の領域では、小数の除法の意味について理解することに課題があります。 ●「量と測定」の領域では、「異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解すること」に課題があります。 ●「図形」の領域では、「円周率の意味理解に関する問題」と「図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを記述する問題」において、全国と同様に正答率が低い状況となっています。 ●「数量関係」の領域では百分率を求めることに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と計算」では、除法の意味をしっかりと理解し、どのような場面で除法が使われるのか適切に判断できるよう指導の充実を図ります。 ○「量と測定」では単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味の理解を深めるように指導の充実を図ります。 ○「図形」では、円周率に意味理解が不十分であることから、直径と円周の関係を調べる活動の充実を図り、直径、円周、円周率の関係の理解を深めていきます。 ○「数量関係」については、百分率を求めるために、基準量と比較量を正しく捉え、立式することができるように指導の充実を図ります。
	主として「活用」に関する問題 (B) <input type="checkbox"/> 「数と計算」 ○全国平均を <u>上回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「量と測定」 ○全国平均を <u>上回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「図形」 ○全国平均を <u>上回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「数量関係」 ○全国平均を <u>上回っています。</u>		

【理科】

	本校の概要	今回調査における課題	改善の方向
小学校 理科	<input type="checkbox"/> 「物質」 ○全国平均を <u>上回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「エネルギー」 ○全国平均を <u>上回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「生命」 ○全国平均を <u>上回っています。</u> <input type="checkbox"/> 「地球」 ○全国平均を <u>上回っています。</u>	<ul style="list-style-type: none"> ●「物質」に関する領域の中で「物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩水に適用する問題」で全国に比べ正答率が低い状況となっています。 ●「地球」に関する領域の中で「より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題」において、全国と同様に正答率が低い状況となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験結果をもとに、分析や考察ができ、より妥当な考えに改善したり、まとめたりできるような指導の充実を図ります。 ○学習を通して獲得した知識を実際の日常生活に適用できるよう、指導の充実を図ります。

【質問紙調査】

質問紙調査につきましては、全国の回答傾向と平岸小学校の児童の傾向を比べ、本校児童の特徴をお知らせいたします。

【子どもの学習に対する態度・意欲関心に関わって】（児童が肯定的な回答をした割合）

家で、自分で計画を立てて勉強していますか	本校：78.7%	全国：67.6%
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	本校：80.9%	全国：62.6%
家での自学自習において、教科書を使っているか	本校：87.2%	全国：69.9%

○家庭で学習をする習慣・意識が全国平均に比べ高い傾向にあり、学力の定着を支える要因になっていると考えます。

【子どもの生活習慣に関わって】

1日あたりの家での学習時間（1時間以上）	本校：81.9%	全国：66.2%
1日あたりの家での読書時間（1時間以上）	本校：26.6%	全国：19.3%

○どちらの時間も全国平均を大きく上回っています。家で学習する習慣が定着していることが分かります。

朝食を毎日食べていますか	本校：92.5%	全国：94.2%
--------------	----------	----------

●毎日朝食を摂る大切さについては、家庭と連携しながら継続して指導する必要があります。

【子どもの心理的傾向に関わって】（児童が肯定的な回答をした割合）

自分には、よいところがあると思いますか	本校：86.2%	全国：84.0%
将来の夢や目標を持っていますか	本校：88.3%	全国：85.1%

○全国と比較して高い現状にあります。自分を肯定的に捉え、前向きに進もうとするよさが見られます。

【子どもの社会性・社会的態度に関わって】（児童が肯定的な回答をした割合）

学校のきまりを守っていますか	本校：96.8%	全国：89.5%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	本校：97.9%	全国：95.2%

○全国平均に比べると高い傾向にあり、規範意識の高さが伺えます。

今住んでいる地域の行事に参加していますか	本校：45.8%	全国：62.7%
地域などでボランティア活動に参加したことがあるか	本校：53.2%	全国：62.6%

●身近な地域行に参加する子どもの割合が依然として低い傾向にあります。（ただ、花いっぱい運動など地域行事が学校の教育活動に組み込まれているケースが多く、子どもが地域行事に参加しているという意識が希薄なことが肯定的な回答率の低さにつながっているとも考えられます。）